

Title	デンマーク語中級文法1 : デンマーク語の動詞のaktionsarter (動作態様) について : デンマーク語の同時の意味・用法をよりよく理解するために
Author(s)	新谷, 俊裕
Citation	
Issue Date	2018-12-25
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71796
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

IDUN
— 北 欧 研 究 —
別冊 3 号

デンマーク語中級文法 1

デンマーク語の動詞の aktionsarter (動作態様) について
— デンマーク語の動詞の意味・用法を
よりよく理解するために —

新谷 俊裕

大 阪 大 学
言語文化研究科 言語社会専攻
デンマーク語・スウェーデン語研究室

2018 年

IDUN

– Journal of Nordic Studies –

Supplement No. 3

Dansk Grammatik for viderekomne 1

Danske verbers aktionsarter

Hjælp til bedre at forstå danske verbers
betydninger og brug

Toshihiro Shintani

Osaka University

Graduate School of Language and Culture

Studies in Language and Society

The Division of Danish and Swedish

Osaka 2018

IDUN — 北欧研究 — 『別冊』 3号刊行にあたって

デンマーク語・スウェーデン語研究室の IDUN 本誌は、今年度、2018 年度末に 23 号を発行予定ですが、これとは別に、デンマーク語の文法をよりよく理解するために、新谷俊裕『デンマーク語中級文法 1 デンマーク語の動詞の aktionsarter (動作態様) について— デンマーク語の動詞の意味・用法をよりよく理解するために—』を刊行いたします。

『別冊』刊行により、北欧研究の幅が広まり、IDUN 本誌だけでは対応しきれなかった研究の多様性が広がることを研究室一同確信し、同時に喜びとするところであります。今後もさらに別冊の刊行に向けて鋭意努力を重ねてゆきたい所存です。

2018 年 12 月 25 日

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
デンマーク語・スウェーデン語研究室

デンマーク語の動詞のaktionsarter (動作態様¹)について

— デンマーク語の動詞の意味・用法をよりよく理解するために —

新谷 俊裕

1. デンマーク語の aktionsarter (動作態様)

デンマーク語の動詞を理解するには aktionsarter (動作態様)を理解する必要がある。

デンマーク語の動詞には語彙的に動作態様が定まっているものと、語彙的には動作態様が定まっていないが、それが現れる構文によって動作態様が変わるものがあり、前者を語彙的動作態様と呼び、後者を文法的動作態様と呼ぶことにする。(GDS 192-195)

1.1. 語彙的動作態様

(1) 状態動詞 *statiske verber* : 均質な状態の状況を表す

自動詞 : *bo* <住んでいる>, *restere* <残っている>, *vare* <(時間的に)続いている>, *være* <～である ; 存在している>

他動詞 : *behøve* <必要としている>, *eje* <所有している>, *elske* <愛している>, *hade* <憎んでいる>, *koste* <値段がしている>, *ligne* <似ている>, *omfatte* <含んでいる>

状態動詞が示す時間の流れは起点と到達点を持たない1本の線で表すことができる。

.... ————— ...

¹ 「動作様態」とも言う。aktionsart は川島ほか (1994), 国松ほか (1990 (1985)), 富山 (1991), フォックス (1993) では「動作の様態を表わす」ものとして <動作態様> という訳語が付されている。しかしこの術語およびその訳語は最も適切なものであるとは言えないであろう。というのも、誰の記述を見ても aktionsart の中には state が含まれると思うが、state を aktion のひとつとするのには抵抗がある。また、デンマーク語の動詞の aktion の art <態様> あるいは種類を分類して Durst-Andersen & Herslund (1996a) は 1) state を表わすもの、2) activity を表わすもの、3) action を表わすものの3種類に分類しているが、aktion を分類した中に action があるのは具合が悪い。また、訳語の観点から見ても、動作態様を分類した中に 2) activity を表わす動作動詞があることになり、これも具合が悪い。戸川ほか (1992) では「動詞が表現する様態 (完了・継続・推移・反復など)」としている。この説明に基づき、訳語に関しては <動詞様態> とするのが最も良いと筆者には思えるが、本稿では敢えてドイツ語辞典の多数に挙げられている <動作態様> を用いることにする。

- (2) 動作動詞：時間的に制限されていない、あるいは完結していない、不均質な経過や人間の活動を表す

自動詞：arbejde〈仕事をする〉, flirte〈いちゃつく〉, hovere〈勝ち誇る〉, klapre〈ガタガタ鳴る〉, lyne 〈(稲妻が) 光る〉, nyse〈くしゃみをする〉, protestere〈抗議する〉, sne〈雪が降る〉, spekulere〈考える〉

他動詞：diskutere〈議論する〉, pleje〈看護する〉

動作動詞が示す時間の流れは、前には進むが到達点を持たない経過として表すことができる。

.....▶

- (3) 変化動詞：状態の変化を表す

自動詞：blive〈～になる〉, komme〈来る〉, ankomme〈到着する〉, besvime〈失神する〉, dukke op〈出現する〉, dø〈死ぬ〉, forsvinde〈消失する〉, splintre〈粉々になる〉, synke〈沈む〉, vælte〈倒れる〉

他動詞：afslutte〈終える〉, annullere〈キャンセルする〉, bryde〈砕く〉, dømmе〈判決を下す〉, hente〈取りに行く〉, knuse〈砕く〉, opklare〈解明する〉, skade〈損なう〉, sænke〈沈める〉, tænde〈点火する〉, vælte〈倒す〉, ødelægge〈壊す〉

変化動詞が示す時間の流れは「元の状態」→「変化」→「変化後の状態」として示すことができる。

元の状態	変化	変化後の状態
<hr/>		

1. 2. 語彙的に動作態様が中立の動詞

デンマーク語には語彙的に動作態様が中立の動詞が多数ある。

1. 2. 1. 往還の動詞の動作態様

gå〈歩く；行く〉, flyve〈飛ぶ〉, kravle〈はう〉, køre〈乗り物が動く；行く〉, løbe〈走る〉, marchere〈行進する〉, rejse〈旅をする；離れる〉, springe〈跳び上がる；跳ぶ〉, svømme〈泳ぐ〉などの、行き来を表す往還の動詞は動作動詞としても、変化動詞としても機能する。

Hun rejste. <彼女は旅をした.> [動作動詞] : <彼女は離れて行った.> [変化動詞]
 De løb. <彼らは走った.> [動作動詞] : <彼らは逃げた.> [変化動詞]
 Han gik. <彼は歩いた.> [動作動詞] : <彼は行った [その場を去った].>
 [変化動詞]

しかし往還の動詞は完了形, 例えば現在完了形において, 完了助動詞の *har* か *er* かによって初めて動作態様が現れる.

Han har gået hele vejen fra stationen. <彼は駅からの道のりをずっと歩いた.>
 [動作動詞]

Han er gået. <彼は行った(ので, もういない).> [変化動詞]
 Han har løbet to timer. <彼は2時間ランニングをした.> [動作動詞]
 Hunden er løbet væk. <犬は走って逃げた.> [変化動詞]

また, 往還の動詞は方向を表す副詞的語句と共起すると変化動詞となる.

Han gik ud/op/ned ... <彼は出て行った/上がった/下りて行った...> [変化動詞]
 Vandet løb ud/ned/væk ... <水は流れ出た/流れ落ちた/流れて行った...> [変化動詞]

また, 往還の動詞は様態を表す副詞的語句と共起すると動作動詞となる.

Hun kørte/rejste rundt. <彼女は乗り物で周った/旅して周った.> [動作動詞]
 Han sejlede frem og tilbage. <彼は船で行き来した.> [動作動詞]

1. 2. 2. 他動詞の非他動詞化等による動作態様の変化

spise や *læse* などの他動詞を, 目的語を省略したり, ユニット強勢を持つ抱合構造にしたり, 前置詞目的語構文にしたり, 動作を表す様態の副詞的語句と共起させるなどをする, これらの動詞は非他動詞化される, すなわち自動詞的になり, 動作動詞となる.

[動作動詞]

Eva spiste. <Eva は食事をした.> [自動詞]

Eva spiste is. <Eva はアイスを食べていた.> [抱合構造 (自動詞的)]

Eva spiste af æblet. <Eva はそのリンゴを食べていた.>

[前置詞目的語構文 (自動詞的)]

Eva spiste løs. <Eva は食べに食べた.> [様態の副詞的語句との共起 (自動詞的)]

↓

[達成動詞]

Eva spiste æblet. <Eva はそのリンゴを食べた.> [他動詞]

達成動詞は、動作・行為が時間の幅を持って行なわれ、起点と到達点がある。したがって、達成動詞の示す時間的流れは、起点と到達点を持つ経過として表すことができる。



[動作動詞]

Jeg læser. <私は読書をする・している.> [自動詞]

Jeg læser avis. <私は新聞を読む・読んでいる.> [抱合構造 (自動詞的)]

Jeg læser i en bog. <私はある本を読んでいる.>

[前置詞目的語構文 (自動詞的) GDS289]

Jeg læste løs i sommerferien. <私は夏休みに読書をしまくった.>

[様態の副詞的語句との共起 (自動詞的)]

↓

[達成動詞]

Jeg læser en bog. <私はある本を読む.> [他動詞]

抱合構造には spise is, læse avis の他に, se fjernsyn <テレビを見る>, lave mad <食事を作る, 料理をする>, børste tænder <歯を磨く>, pudse næse <鼻をかむ>, spille computer <コンピュータゲームをする>, vande blomster <花に水をやる> などがあるが, これらはすべてユニット強勢であり, 動詞には強勢はなく, 目的語の名詞に強勢がある。名詞は目的語とは言え, 真の目的語項ではなく, ユニット全体が非他動詞化され, 自動詞的になる。

læse i en bog のような前置詞目的語構文は到達点がなく非限界的で, 到達点があり限界的な læse en bog のような達成動詞とは時間を表す前置詞の用法の違いが特徴的である。

Han læste bogen på fire timer. <彼はその本を4時間で読んだ.>

Han læste i bogen i fire timer. <彼はその本を4時間の間, 読んでいた.>

つまり達成に要した時間を表す前置詞 på と時間の継続を表す前置詞 i との違いである。

自動詞のなかには、状態動詞と変化動詞の交代を見せるものがある：

[状態動詞]

Han 'står henne ved døren. <彼は向こうのドアのそばに立っている.>

Vi måtte 'stå op hele vejen i bussen.

<私たちはバスですずっと立っていなくてはならなかった.>

↓

[変化動詞]

Han 'står 'op kl. syv om morgenen. <彼は朝 7 時に起床する.>

Han 'står straks 'op, når chefen kommer ind.

<彼は、上司が入ってくるとただちに立ち上がる.>

状態動詞の 'stå op <立っている、立ち続ける> では動詞に強勢があるが、変化動詞の 'står 'op <立ち上がる; 起床する> は、場所の移動を表す副詞的語句を伴った、いわゆる場所移動構文でユニット強勢であり、動詞には強勢がなく、後ろの副詞的語句に強勢がある。

動詞の中には、状態動詞、動作動詞、変化動詞になるものがある：

[状態動詞]

Præsten bar ikonerne. <主教たちはイコン聖画を持っていた.> [他動詞]

↓

[動作動詞]

Præsten bar på ikonerne. <主教たちはイコン聖画を運んでいた.>

↓

[前置詞目的語構文]

[変化動詞]

Præsten bar ikonerne ud. <主教たちはイコン聖画を運び出した.> [場所移動構文]

1. 2. 3. デンマーク語の動詞の動作態様の全体像

以上のことから、デンマーク語の動詞の動作態様 (aktionsarter) は、その意味が状態的 (statisk) か非状態的 (non-statisk) (=動態的 (dynamisk)) か、到達点のある限界的 (telisk) か到達点のない非限界的 (atelisk) か、継続的 (durativ) か瞬間的 (momentan) かによって、状態動詞 (statiske verber), 動作動詞 (aktivitetsverber), 達成動詞 (udførelsesverber), 変化動詞 (transformative verber) の四種に分類することができる。

状態的 statisk		非状態的 non-statisk (= 動態的 dynamisk)	
非限界的 atelisk		限界的 telisk	
継続的 durativ			瞬間的 momentan
状態動詞 statiske verber	動作動詞 aktivitetsverber	達成動詞 udførselsverber	変化動詞 (推移動詞) transformative verber
語彙的 : bo, restere, vare, være; behøve, eje, elske, hade, koste, ligne, omfatte <i>etc.</i> 文法的 : sidde, stå <i>etc.</i>	語彙的 : arbejde, flirte, hovere, klappe, lyne, nyse, protestere, sne, spekulere; diskutere, pleje (= yde omsorg) <i>etc.</i> 文法的 : gå (har gået) , løbe (har løbet), læse (læse, læse avis, læse i en bog, læse løs), skrive (skrive, skrive på en bog, skrive bøger) <i>etc.</i>	文法的 : læse (læse en bog/ bogen), skrive (skrive en bog) <i>etc.</i>	語彙的 : blive, komme, ankomme, besvime, dukke op, dø, forsvinde, splintre, synke, vælte; afslutte, annullere, bryde, dømme, hente, knuse, opklare, skade, sænke, tænde, vælte, ødelægge <i>etc.</i> 文法的 : gå (er gået, gå op/ned...), løbe (er løbet, løbe op/ned ...) sidde (0sidde 'ned), stå 0stå 'op) <i>etc.</i>

ramme <当たる, 命中する ; 当てる, 命中させる>, træffe <当たる, 命中する ; 会う>, møde <会う> は瞬間的であり, 完結を表すが, 変化は表さない. したがって, 例えば, 「瞬間的達成動詞」 などといった5つ目の動作態様を設ける必要があるかもしれない.

2. 動詞の動作態様を視野に入れた文法説明

教科書, 新谷俊裕・Thomas Breck Pedersen・大辺理恵. 2014. 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ 10 デンマーク語』. 大阪: 大阪大学出版会, の中で説明した文法項目のいくつかは動詞の動作態様を用いてさらに詳しく, あるいは正確に説明する必要がある.

2. 1. 動詞の現在形が現在の進行状況を表すことができるのは動作動詞のみ

動詞の現在形で現在の進行状況を表すことができるのは動作動詞だけである. 教科書 p.101 「8.1.3 現在形の用法 (2) 現在の進行状況」では次の例文を示している.

Hvad laver du her? (= What are you doing here?) – Jeg *læser* avis.

〈あなたはここで何をしていますか?〉 – 〈新聞を読んでいます.〉

Børnene *leger* ude i haven. 〈子どもたちは外の庭で遊んでいる.〉

Far står og *laver* mad ude i køkkenet. 〈父さんはキッチンで料理をしている.〉

例文中の *leger* は自動詞であり, *læser avis* と *laver mad* は抱合構造であり, どれも自動詞的で動作態様は動作動詞であるので, これはこれで良い.

一方, Hvad laver du her? の質問に対して, 「本を最初の頁から終わりまで読み終えること」を表す達成動詞を用いて答えることはできない.

×Jeg *læser* en bog/bogen. 〈私は(ある 1 冊の)本/その本を読む.〉

Jeg *læser* en bog/bogen. は未来の事を表し, Jeg *læser* en bog. は未来のことか, 「週に 1 冊本を読む」などのような習慣的なこと, つまり反復 (iterativ) を表すことができる.

「(ある 1 冊の)本/その本を読んでいます」とするためには前置詞 i を挿入して前置詞目的語構文にして次のようにする必要がある.

Jeg *læser* i en bog/bogen. 〈私は(ある 1 冊の)本/その本を読んでいる.〉

過去形の場合も同様に, 「私が昨夜帰宅した時, 妻は(ある 1 冊の)本/その本を読んでいた」をデンマーク語にすると次のようになる.

×Da jeg kom hjem i aftes, *læste* min kone en bog/bogen.

○Da jeg kom hjem i aftes, *læste* min kone i en bog/bogen.

2. 2. 現在形は, 動詞の動作態様に関わりなく, 未来を表すことができる.

教科書 p.101 「8.1.3 現在形の用法 (4) 未来の事柄」では次の例文を示している.

Jeg *kommer* snart. 〈まもなく行きます.〉

Det *bliver* regnvejr i morgen. 〈明日は雨天になる.〉

Jeg *rejser* til Skagen, hvis jeg *får* tid.

〈私は、もし時間があれば、スケーインに行きます。〉

この *kommer*, *bliver*, *rejser*, *får* はすべて変化動詞であるが、現在形は動作態様に
関わりなく未来を表すことができる。

Til den tid *er* vi så 90 år, hvis vi da *lever* 〈その時には私たちは、もしその時生きて
いたとしたらがだが、つまり 90 歳になっている。〉 [状態動詞], [動作動詞]

Tror du snart, du *bliver* færdig?

〈あなたはご自身がもうすぐ終わると思いますか?〉 [変化動詞]

Er du hjemme, når jeg *kommer*? 〈あなたは私が到着した時ご自宅にいらっしゃい
ますか?〉 [状態動詞], [変化動詞]

Når solen *brænder ud*, *falder* den ind i sig selv og *eksploserer*. 〈太陽は燃え尽きると
自身の中に埋没して爆発する。〉 [変化動詞], [変化動詞], [変化動詞]

Måske *skriver* jeg en dag en bog helt uden tegninger. 〈もしかしたら私はある日、挿
絵がまったくはいていない本を書くかもしれない。〉 [達成動詞]

動詞の現在形が未来を表すことができるという特徴から平叙文の形をした「約
束」に用いることができる。

Jeg *kommer* om et øjeblik. 〈もう少ししたら行きます。〉

Vi *betaler* straks ved ankomsten, på ære! 〈到着したら即座に支払います、誓って!〉

2. 3. 行為・動作の進行状況あるいは継続状況を表す表現と動作態様

行為・動作の進行状況あるいは継続状況を表す表現には [ligge/sidde/stå/gå +
他の動詞] や [være i færd med at 不定詞] や [være ved at 不定詞] がある。

2. 3. 1. ligge/sidde/stå/gå + 他の動詞

教科書 pp.164-165 「12.5.1 ligge/sidde/stå/gå + 他の動詞」では次の例文を示し
ている。

Drengen *ligger* og *hører* radio. 〈男の子は(寝転がって)ラジオを聴いている。〉

Pigen *sidder* og *læser* oppe på sit værelse.

〈女の子は上の自分の部屋で(座って)勉強をしている。〉

Familien *sad* og *så* fjernsyn hele aftenen. 〈一家は一晩中テレビを見ていた。〉

Mor *står* og *laver* mad ude i køkkenet.

〈お母さんは台所で(立って)食事を作っている。〉

Far *går* og *vander* blomster ude i haven.

〈お父さんは外の庭で花に水をやっている。〉

læse は自動詞で, *høre radio*, *se fjernsyn*, *lave mad*, *vande blomster* は抱合構造であり, 動作態様はすべて動作動詞である。つまり, [*ligge/sidde/stå/gå* + 他の動詞] の構文は行為・動作の進行状況あるいは継続状況を表す表現としては, 動作動詞と状態動詞でのみ用いられ, 達成動詞や変化動詞では用いられない。

○*Hun sidder og læser*. <彼女は読書をしている。> [自動詞] [動作動詞]

○*Hun sidder og læser avis*. <彼女は新聞を読んでいる。> [抱合構造] [動作動詞]

○*Hun sidder og læser i en bog*. <彼女は(ある)本を読んでいる。>

[前置詞目的語構造] [動作動詞]

× *Hun sidder og læser en bog*. <彼女は(ある)本を読んでいる。> [達成動詞]

状態動詞はそれ自体が継続的であるので [*ligge/sidde/stå/gå* + 他の動詞] の構文にすると, 「今現在の」状況を強調する。

Han står og mangler penge. <彼は [今] お金が足りない。>

Jeg sidder og savner dig.

<私は [PC に向かってあなたにメールを書いている今] あなたが恋しい。>

ただし, 変化動詞も反復的 (iterativ) な読みで二次的に継続的になると [*ligge/sidde/stå/gå* + 他の動詞] の構文で用いることができる。

Han stod og fyrede en pistol af. <[見るたびに]彼は拳銃を撃っていた。>

Han stod og slog et søm i, hver gang jeg gik forbi.

<彼は, 私が通り過ぎるたびに, 釘を打ち込んでいた。>

Han er ikke rigtig rask; han går og falder om.

<彼はそんなに元気ではない。彼はたびたび転倒する。>

2. 3. 2. *være i færd med at* 不定詞, *være ved at* 不定詞

教科書 p.166 「12.5.2 *være i færd med at* 不定詞, *være ved at* 不定詞」では次の例文を示している。

Han er i færd med at male sommerhuset.

<彼は別荘にペンキを塗っているところだ。>

Børnene var i færd med at pynte juletræet, da deres forældre kom hjem.

<子どもたちは, 彼らの両親が帰宅した時, クリスマスツリーに飾り付けをしている最中だった。>

De er ved at spise. <彼らは食事をしているところです。>

Vi var ved at pakke, da du ringede.

<私たちは, あなたが電話してきた時, 荷物をつめていたところでした。>

その他の例文：

Han er i færd med at *lave* mad. <彼は食事を作っているところです.>

Han var ved at *skrive* bogen. <彼はその本を書いている最中だった.>

行為・動作の進行状況あるいは継続状況を表す *være i færd med at* も *være ved at* も動作動詞および達成動詞と共に用いることができるが、状態動詞および変化動詞と共に用いることはできない。[*ligge/sidde/stå/gå* + 他の動詞] の構文が達成動詞と共に用いるのに対して、*være i færd med at* も *være ved at* が達成動詞と共に用いるのは、これらの表現が「～に従事している、～の最中である」という意味だからであろう。

ただし、これらの表現は動作動詞でも前置詞目的語構文とは共起しないので、「私が昨夜帰宅した時、妻は(ある 1 冊の)本/その本を読んでいた」をデンマーク語にすると次のようになる。

× Da jeg kom hjem i aftes, *læste* min kone en bog/bogen.

○ Da jeg kom hjem i aftes, *læste* min kone i en bog/bogen.

× Da jeg kom hjem i aftes, *sad* min kone og *læste* en bog/bogen.

○ Da jeg kom hjem i aftes, *sad* min kone og *læste* i en bog/bogen.

○ Da jeg kom hjem i aftes, *var* min kone ved at *læse* en bog/bogen.

× Da jeg kom hjem i aftes, *var* min kone ved at *læse* i en bog/bogen.

○ Da jeg kom hjem i aftes, *var* min kone i færd med at *læse* en bog/bogen.

× Da jeg kom hjem i aftes, *var* min kone i færd med at *læse* i en bog/bogen.

なお教科書では、[*være ved at* 不定詞] は「もう少しで～しそうである」、過去の場合には「もう少しで～しそうであったが、そうならなかった」を意味する時がある、なお、その場合には副詞 *lige* <まさに、ちょうど> を伴うことが多い、としたが、これはこの表現が状態動詞および変化動詞と共に用いる場合である。

[状態動詞と共に]

Han er ved at *have* penge nok. <彼はもう少しでお金が十分になる.>

Han var ved at *forstå* problemet. <彼はもう少しでその問題を理解しそうだった.>

Hun var ved at *ligne* sin farmor. <彼女はもう少しで祖母に似そうだった.>

Jeg er ved at *være* færdig. <私はもう少しで終わるところだ.>

[変化動詞と共に]

Jeg er ved at *dø* af kulde. <私は寒くて今にも死にそうだ.>

Han var ved at *drukne*. <彼は(危うく)溺れるところであった.>

Jeg var lige ved at *falde* i søvn midt i timen. <私は授業中に眠りそうになった.>

3. -en 動詞的名詞とケンタウロス名詞句

デンマーク語では動詞語幹に -en を加え、名詞を作ることができる。

børnenes råben <子どもたちが叫ぶこと>

deres plagen om saftevand <彼らがジュースをねだること>

den megen snakken sort <そのわけのわからないことをよく言うこと>

hans sætten sig på den høje hest <彼が威張りくさること>

denne evige gåen tur <この絶えず散歩に行くこと>

al hendes irriterende blanden tingenge sammen

<彼女が、腹立たしいことに、物事を混同すること>

この -en 動詞的名詞は、左側には限定語や修飾語を伴うという名詞的な特徴を示し、右側には副詞的語句や目的語や補語などを伴うという動詞の特徴を示す構造の名詞的語句を形成することが可能である。この名詞的語句は、上半身が人間で、下半身が獣であるギリシア神話のケンタウロスに譬えて、ケンタウロス名詞的語句 (kentauernominaler) と呼ばれている。ところで名詞的語句とは名詞句が文中で名詞的な文構成素として機能する場合の名称であるが、本稿では当該の名詞的語句を文とは切り離して議論することがあるのでケンタウロス名詞句 (kentauernominalfraser) という名称を用いることにする。なお、本稿でケンタウロス名詞句を扱うのは、後で詳述するが、ケンタウロス名詞句は継続的動作を表す場合のみ可能である、つまり動詞の動作態様が動作動詞の場合か、反復的 (iterativ) 読みの変化動詞のみ可能だからである。

3.1. 形態

ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞は非常に生産的で、常に新しいものが造られているが、特殊な場合にしか辞書に登録されない。

3.1.1. -en 動詞的名詞の形態

ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞は屈折に関しては次のようである：

- (i) 数に関する屈折変化がなく、基本形 (defaultform) としての単数形しかない。したがって、数詞や数量形容詞 (mængdeadjektiver) などの数量を示すことば (tæller) とは結びつかない。
- (ii) 所有格形がなく、その機能もない。
- (iii) 既知形がない。

したがって、-en 動詞的名詞は動詞語幹から形成された名詞であるとはいえ、名詞のいかなる形態変化も見せない。また、

- (iv) 異態動詞 (deponente verber), すなわち能動の意味を持つ -s 形動詞からは -en 動詞的名詞は形成されない。
- (v) -en 動詞的名詞は共性名詞扱いとなり, 限定する冠詞や修飾する形容詞等は共性名詞に対応したものとなる。

3. 2. ケンタウロス名詞句の構造 — 統語論

ケンタウロス名詞句は前の部分が名詞的特徴を示す下位要素 (adled) で後ろの部分全体が中核要素 (kerneled) となっている名詞的従位統合体 (nominal-hypotagmer) であり, 中核要素の内部構造は従位節や不定詞句の構造に類似している。

<i>forbinder</i> (接続詞的語句)	<i>adled</i> (下位要素)		<i>kerne</i> (中核要素)			
	best.	beskr.	v	V	N	A
<i>og med</i>	<i>hans</i>	<i>evindelige</i>	<i>villen</i>	<i>hævde</i>	<i>sig</i>	<i>i flokken</i>
- -	<i>denne</i>	-	<i>rejsen</i>	-		<i>frem og tilbage</i>
<i>eller</i>	<i>en</i>	<i>usympatisk</i>	<i>masen</i>	-	<i>sig</i>	<i>på</i>
- -	<i>deres</i>	<i>uførståelige</i>	<i>given</i>	-	<i>de andre</i>	<i>altid ret</i>

なお上表中の例文の意味は次のようである。

〈そして彼が集団の中で常に目立とうとすることによって〉

〈この行き来すること〉

〈あるいは共感の持てない, 押し付けがましくすること〉

〈彼らが, 理解できないことに, 他の者たちがいつでも正しいとすること〉

また -en 動詞的名詞の上に N/V と記し, -en 動詞的名詞は左側が名詞的特徴を持ち, 右側が動詞的特徴を持つことを示すことができる。

ART	ADJ	N/V	O _d	Mådesadv.	Prædikativ	O _p
deres		plagen				om saftevand
hans		sætten	sig		på den høje hest	
den	megen	snakken		sort		
hendes	irriterende	blanden	tingene		sammen	
denne	evige	bliven			forkølet	

Art : 限定語. ADJ : 形容詞. O_d : 目的語. Mådesadv. : 様態の副詞的語句.

Prædikativ : 補語 [なお, 補語の場所にはある種の副詞的語句も置かれる].

O_p : 前置詞目的語.

なお上表中の例文の意味は次のようである。

〈彼らが濃縮還元ジュースをねだること〉

〈彼が威張りくさること〉

〈そのわけのわからないことをよく言うこと〉

〈彼女が、腹立たしいことに、物事を混同すること〉
 〈この絶えず風邪をひくこと〉

3.3. ケンタウロス名詞句の名詞的部分の構造

ケンタウロス名詞句は従位節や不定詞句と類似した構造を持つが、-en 動詞的名詞の左側に来る部分は純粋に名詞的であり、そのため、従位節や不定詞句では動詞的語句の左側に中域副詞的語句を置く場所があるのに対して、ケンタウロス名詞句では -en 動詞的名詞の左側には中域副詞的語句を置く場所はない。

hans (×altid) / (evindelige) kommen med undskyldninger

〈彼が絶えず言い訳をすること〉

denne (×ikke) / (manglende) tagen hensyn

〈このおもいやりのないこと〉

つまり従位節や不定詞句では中域副詞的語句が置かれるところであるが、ケンタウロス名詞句では中域副詞的語句の代わりに類似の意味を有する形容詞が置かれる。

hans evindelige kommen med undskyldninger

↑
↓

at han **altid** kommer med undskyldninger [従位節]

〈彼がいつも言い訳をすること〉

altid at komme med undskyldninger [不定詞句]

denne manglende tagen hensyn

↑
↓

at man **ikke** tager hensyn [従位節]

〈おもいやりのないこと〉

ikke at tage hensyn [不定詞句]

ケンタウロス名詞句は他の動詞的名詞と同様に主語と目的語を前置詞 *af* で表すことができる。

af + 主語

vi hørte klappen af fødder

〈私たちは足がパチパチ鳴る音が聞こえた〉

klirren af glas og flasker trængte ud gennem vinduet

〈グラスとビンのカチャカチャ鳴る音が窓からもれ出ていた〉

der lød mumlen af mange mennesker

〈大勢の人がぶつぶつ言う音がしていた〉

sammenstimlen af nysgerrige må forhindres

〈野次馬が群がるのは阻止されなければならない〉

af + 目的語

vi må forhindre yderligere ødelæggen af inventaret

〈私たちは備品をさらに壊すのを阻止しなければならない〉

opklæben af plakater forbudt

〈ポスターを貼るのは禁止〉

aflytten af politiets radiofrekvens er ikke tilladt

〈警察の無線を盗聴するのは許されていない〉

3. 4. ケンタウロス名詞句の動詞的部分の構造

- (I) ケンタウロス名詞句の右側の動詞的部分に何が入るかということは、中核要素にある -en 動詞的名詞の結合価 (valens) にかかっている。したがってこの点に関しては不定詞句、従位節、ケンタウロス名詞句との間に完全な一致が見られる。

at hævde sig på andres bekostning

〈他人を犠牲にして自分の権利を主張すること〉

at han hævder sig på andres bekostning

〈彼が他人を犠牲にして自分の権利を主張すること〉

hans hævden sig på andres bekostning

〈彼が他人を犠牲にして自分の権利を主張すること〉

- (II) ケンタウロス名詞句の中核となる動詞的名詞の強勢状況も真の動詞構文の強勢状況とまったく並行している。すなわち、ケンタウロス名詞句は弱強勢の中核となる動詞を持つことが可能である。

han 'spiller på kla'veret <彼はピアノを弾いている> [前置詞目的語構文]

han 〇spiller kla'ver <彼はピアノを弾く> [抱合構造]

hans 'spillen på kla'veret <彼がピアノを弾いていること> [前置詞目的語構文]

hans 〇spillen kla'ver <彼がピアノを弾くこと> [抱合構造]

- (III) 結合価に関して唯一存在する制限は、ケンタウロス名詞句が代名詞の目的語や限定語 (*bestemmer*) の付いた目的語を持つことはできないということである。つまり、ケンタウロス名詞句は本来の目的語項 (*objektargument*) を持つことができない。

○*denne læsen aviser/Kierkegaard* <この、新聞/キェルケゴールを読むこと>

×*denne læsen dem/avisen/en avis/nogle aviser/begge aviser*

<この、それら/その新聞/ある新聞/いくつかの新聞/両方の新聞を読むこと>

- (IV) しかしながら、中核となる動詞が弱強勢である場合、すなわちユニット強勢 (*enhedstryk*) を成す語結合の一部となるとき、目的語は代名詞であることが可能であり、また限定語を持つことができる。

hans gemytlige „kniben det ene øje i <彼が陽気に片一方の目を細めること>

den årlige „slåen katten af tønden <毎年の、樽から猫を叩き出すこと>

rektors „holden de arme lærere hen med snak

<校長がうまいことを言って哀れな教師たちを引き止めておくこと>

rektors „holden dem hen med snak

<校長がうまいことを言って彼らを引き止めておくこと>

drengens besværlige „staven sig igennem den svære tekst

<その男の子がその難しいテキストを苦勞してたどたどしく読むこと>

Hendersons „given de andre skylden for det hele

<Henderson がそのすべてのことを他の人たちのせいにする>

- (V) 前置詞目的語構文はユニット強勢や限定語に関する要求をしない。

denne læsen i avisen <この、新聞を読んでいること>

den snagen i folks privatliv <その、人びとの私生活を暴き出していること>

hans bæren rundt med/på en tung kasse <彼が重い箱を運び回っていること>

denne begejstrede vinken med både arme og ben

<この、興奮して四肢全部を振って合図していること>

deres håben på Messias' genkomst <彼らがメシアの再来を望んでいること>

den hjerteløse grinen ad Haarder <その、Haarder を薄情に笑っていること>

hendes insisteren på at betale <彼女がお金を払うと言い張っていること>

- (VI) 中核をなす動詞が強強勢の場合、前置詞を介さない代名詞の目的語は、目的語が再帰代名詞である場合にのみ可能である。

hans evindelige brokken sig <彼が絶えず文句を言うこと>

jeres vægren jer ved at bidrage <あなたがたが貢献することを拒否すること>
din ømmen dig over udgifterne <あなたが出費を嘆くこと>

ところで、本稿の §3 (p.11) で、ケンタウロス名詞句の中で -en 動詞的名詞は目的語などをとるとしてきたが、上記説明から、これは正確ではないことが分かる。つまり、目的語と言っても、ケンタウロス名詞句の中で目的語になり得るのは、再帰代名詞のほかは、抱合構造における限定語の付かない名詞で、ユニット強勢を持つ構造における目的語であったり、前置詞目的語構文における前置詞を介する目的語であったりするということである。

3.5. ケンタウロス名詞句の文中における機能

ケンタウロス名詞句の文中における機能、すなわちケンタウロス名詞的語句の機能について、ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞に所有格形が欠けていることより生じる例外はあるものの、名詞が持つあらゆる統語的機能を有する：

derfor irriterer den megen flytten om på bøgerne bibliotekets brugere
<したがって本をたくさん移し変えることに図書館の利用者は腹を立てている>
derfor irriterer det bibliotekets brugere at der flyttes så meget om på bøgerne
<したがって本がそれほどたくさん移し変えられることに図書館の利用者は腹を立てている>

以下にケンタウロス名詞的語句が文中で果たす様々な機能を例示する。

主語として

MRs skæren alternative behandlinger over én kam kan faktisk være nyttig,
(Korpus 2000)
<MRが他にとりうる諸々の治療法を一律に扱うことは実際有益かも知れない,>
Alligevel er den nye bølges slutten op om et magasin karakteristisk. (Korpus 90)
<それにもかかわらず新しい波が雑誌を支持することは特徴的である.>

補語として

Resultatet blev ikke en nationalromantisk slutten op bag disse gebrækkelige neologismer; men en total afvisning. (Korpus 2000)
<その結果は、これらの欠陥のある新造語を民族ロマン主義的に支持することとはならず、完全に拒絶することとなった.>

Det er en total underlæggen sig USA. (Korpus 2000)

〈それはアメリカ合衆国に完全に屈服することである.〉

Og det er også en konsekvent bryden løfter ... (Korpus 2000)

〈そしてそれは徹底して約束を破ることである...〉

目的語として

han ... kunne stadig høre deres grove banden over, at det gik for langsomt og at de manglede sten. (Korpus 90)

〈彼は、…遅すぎる、レンガが足りない、と彼らが乱暴に悪態をついているのが未だに聞こえた.〉

jeg forstår ikke Socialdemokratiets falden på knæ (Korpus 90)

〈私には社会民主党がひざまづくのが理解できない〉

Stop diskussionerne og den energiske malen fanden på væggen (Korpus 2000)

〈議論とそのように精を出して縁起でもないことを言うのを止めよ〉

副詞的語句：前置詞句として

Efter lang tids snakken om fordele og ulemper ved at drive behandling samme sted, som familien bor, blev mor og datter enige om at finde et andet sted. (Korpus 90)

〈一家が住んでいるのと同じ場所で治療を行なうことの利点と欠点について長い時間話した後、母と娘は別の場所を見つけることで意見が一致した.〉

man lærer undervejs meget om mafiaens trængen op mod nord (Korpus 90)

〈マフィアが北に向かって強引に勢力を伸ばしていることについて、その途中で多くを学ぶ〉

Kauffmanns budskab lød, at Danmarks sikkerhed var afhængig af en klar dansk vælgen side. (Korpus 2000)

〈Kauffmannのメッセージは、デンマークの安全はデンマークがどちらの側につくかを明瞭に決めることにかかっているというものであった.〉

3. 6. ケンタウロス名詞句の表わす意味と動作態様 (aktionsart)

ケンタウロス名詞句は内容の側面から見ると、動作 (aktivitet) 的な動作態様にのみ限定されるという意味で動作態様 (aktionsart) の体系と結びついており、形態素 *-en* は継続的動作 (durativ aktivitet) を表わす。

- (A) ケンタウロス名詞句は動作態様として継続的動作の意味 (durativ aktivitetsbetydning) を持ち、均質な状態を表わすことはできない。動作動詞の構成するケンタウロス名詞句は不均質な継続あるいは反復を表わす。

familiens holden fast ved traditionerne styrker dens sammenhold

〈家族が伝統を守ることは家族の団結を強める〉

jeg hader egentlig denne soven længe hver søndag

〈私はほんとうはこのように毎日曜日に遅くまで寝ることが大きいです〉

pressen giver hans legen kispus med bestyrelsen skylden for hans upopularitet

〈報道関係者たちは彼が不人気なのは彼が理事会をからかうせいだとしている〉

nu kan det snart være nok med denne flirten med socialisterne

〈もういいかげん、このように社会主義者たちに色目を使うのはうんざりだ〉

変化動詞は、反復的に解釈され、したがって継続的動作として見なされないかぎり、ケンタウロス名詞句を構成することはできない。

der er ingen grund til at være imponeret over hans falden på halen for publikum

〈彼が聴衆を無批判に賞賛するのに感心する理由はひとつもない〉

denne tagen afsked går mig på nerverne

〈こうして別れを告げることは私の癪に障る〉

deres måltider er simpelt hen en evindelig æden sig syg

〈彼らの3度の食事はただただ食べまくって病気になることである〉

der er nu noget festligt ved denne lukken op og tagen imod

〈この開けて迎え入れることはなんとなくお祭り気分ですよ〉

årsagen er den megen kommen og gåen

〈その原因は絶えず行き来することである〉

(B) 一義的な状態動詞, すなわち他の動作態様を持たない状態動詞と状態動詞的読みは, ケンタウロス名詞句の中核要素中には現れない.

a. 意志を表わさない知覚動詞・認識動詞 (non-volitive perceptions- og kognitionsverber)

× *denne haden frisk luft* <この新鮮な空気を毛嫌いしていること>

× *elevernes forståen matematik* <生徒たちが数学を理解していること>

× *din kenden forskel* <あなたが違いが分かっていること>

× *hans regnen med din hjælp* <彼があなたの援助を当てにしていること>

b. 所有関係, 居住関係, 構成関係等を表わす状態動詞 (relationelle tilstandsverber)

× *bladets indeholden sladder* <その雑誌がゴシップを載せていること>

× *selskabets ejen skibsaktier* <その会社が船舶の株を保有していること>

× *hans årelange boen på Amager* <彼が長年Amager島に住んでいること>

× *foreningens ensidige beståen af mandlige akademikere*
<その協会が偏って男性の大学院修了者で構成されていること>

3. 7. 軽蔑的な意味 (pejorativ betydning)

ケンタウロス名詞句は感情的に判断する文脈に非常に頻繁に現れ, しばしば「軽蔑的な」意義を有している. このことは, 長引いたり, 繰り返して起こることは苛立ちを呼び起こすからであるとする語用論的な事柄である. したがって次のケンタウロス名詞句

børnenes synge fædrelandssange <子供たちが祖国の歌を歌うこと>

に続く述部としては *opmuntrer mig* <私を励ます> よりむしろ *irriterer mig* <私を苛立たせる> の方が予想される.

しかしながらケンタウロス名詞句は軽蔑的ではない文脈にも使われるわけで, そのためケンタウロス名詞句の意味的特徴において軽蔑性は一般性のあるものとは言えない.

arkæologernes søge efter spor gav omsider resultat

<考古学者たちが痕跡を探していたことはついに結果をもたらした>

jeg er imponeret over denne opofrende tagen sig af de svage

<私はこうして献身的に弱者たちの面倒をみることに感銘している>

efter flere års flakke om i Sydamerika slog han sig omsider til ro som cykelsmed på Slagelsekanten

<長年にわたり南アメリカをさまよった後, 彼はついにSlagelse辺りで自転車屋として落ち着いた>

så kom der en periode hvor vi kun hørte *havets dumpe hamren mod kysten*

〈そうして私たちには海が岸に打ちつける鈍い音しか聞こえない時期が訪れた〉

3. 8. 文法化された動作態様

多くのデンマーク語の動詞は動作態様に関して中立的であり，統語構造を通して初めて動作態様は明瞭化される．つまり，他動詞は非他動詞化されて動作動詞となるが，これは (1) 状態動詞的読みから動作動詞的読みへの変換として，(2) 達成動詞的読みから動作動詞的読みへの変換として，(3) 非継続的動作動詞的読みから継続的動作動詞的読みへの変換として，実現される．なお，読み替えパターンは次のように〔動詞＋目的語〕→〔動詞＋前置詞目的語〕である．

状態 Statisk

de ventede hende

〈彼らは彼女を待ち受けていた；
彼女が来るものと思っていた〉

remmen bærer spærene

〈土台は垂木を支えている〉

de søgte en bolig

〈彼らは住居を手に入れようとしていた〉

→ 動作 Aktivitet

de ventede på hende

〈彼らは彼女を待っていた〉

han bærer på alle hendes bøger

〈彼は彼女の本を全部運んでいる〉

de søgte efter en bolig

〈彼らは住居を探していた〉

達成 Udførsel

hun læste avisen

〈彼女はその新聞を読んだ〉

de drak vinen

〈彼らはそのワインを飲んだ〉

hun skrev en kronik

〈彼女はある特別記事を書いた〉

de drejede rattet

〈彼らはハンドルを回した〉

→ 動作 Aktivitet

hun læste i avisen

〈彼女はその新聞を読んでいた〉

de drak af vinen

〈彼らはそのワインを飲んでいた〉

hun skrev på en kronik

〈彼女はある特別記事を書いていた〉

de drejede på rattet

〈彼らはハンドルを回していた〉

非継続的動作 Non-durativ aktivitet → 継続的動作 Durativ aktivitet

de slog børnene

〈彼らは子供たちを叩いた〉

jeg har kysset pigen

〈私はその女の子にキスをした〉

du må ikke røre dørkarmen

〈あなたはドアの枠張りに
触れてはいけない〉

de slog på børnene

〈彼らは子供たちを繰り返し叩いた〉

jeg har tit kysset på pigen

〈私はその女の子によくキスをした〉

du må ikke røre ved dørkarmen

〈あなたはドアの枠張りを
いじくってはいけない〉

3.9. 文法的動作態様としてのケンタウロス名詞句形成

ケンタウロス名詞句を構成する *-en* 動詞的名詞の結合価との関連で、ケンタウロス名詞句は本来的な目的語を持つことができないが、一方、*„spille kla'ver, „læse a'viser, „slå 'katten af tønden* のようなユニット強勢を成す抱合構造、*læse i avisen* のような前置詞目的語構文、*brokke sig* などのような再帰代名詞を目的語とする再帰動詞はケンタウロス名詞句を構成することができるが、と説明してきたが、これらすべては動作態様との関連で説明することができる。つまり、本来的な目的語を持つもので継続的動作の読みと結び付かないものはすべてケンタウロス名詞句から排除されると言うのである。

状態 Statisk

- × *deres venten* hende
- × *remmens bæren* spærene
- × *deres søgen* en bolig

→動作 Aktivitet

- deres venten* på hende
- hans bæren* på alle hendes bøger
- deres søgen* efter en bolig

状態動詞においては、ケンタウロス名詞句を構成する *-en* 動詞的名詞の派生語尾 *-en* そのものは継続的動作を表わすのに対して、状態動詞が構成するケンタウロス名詞句は状態を表わすわけで、この継続的動作と状態とは互いに排除し合うのである。状態動詞は反復的にはなれない。それに対して達成動詞においては、不定冠詞を伴った名詞や既知形の名詞などといった定の本来的目的語は反復的読みという形で動作の意味を妨げ、反復的解釈を呼び起こす他の条件がないかぎり、単一の推移を表わす。

達成 Udførsel

- × *hendes læsen* avisen
- × *deres drikken* vinen
- × *hendes skreven* en kronik
- × *deres drejen* rattet

動作 Aktivitet

- hendes læsen* i avisen
- deres drikken* af vinen
- hendes skreven* på en kronik
- deres drejen* på rattet

一方、*„læse 'højt* や *„dreje 'frem og til'bage* のように様態の副詞を伴った、いわゆるユニット強勢を持つ抱合構造においては、様態の副詞自体が継続的動作の構造を与えるのでケンタウロス名詞句を構成することが可能である。

hendes læsen avisen højt <彼女が大きな声を出してその新聞を読むこと>

deres drejen rattet frem og tilbage <彼らがハンドルを前や後ろに回すこと>

上の frem og tilbage が継続的動作の構造を与えることは一目瞭然である。一方 læse avisen højt は læse avisen <その新聞を読む(=読み終わる)> とは異なり、「読み終わる」という行為の達成は表わしておらず、「大きな声をだして読む」という継続的動作を表わしており、この継続的動作の意味は højt <大きな声を出して> が与えたものである。

また „drikke 'op や „skrive 'om のような、推移や達成の構造を形成する方向の副詞を伴った抱合構造においては、この種の抱合構造が形成するケンタウロス名詞句は反復的であると解釈できる。

deres drikken vinen op hver gang <彼らがワインを毎回飲み干すこと>

hendes skreven bogen om <彼女がその本を書き直すこと>

3 番目で最後のグループは継続性に関する制限である。

非継続的動作 Non-durativ aktivitet

× deres slåen børnene

× din kysen pigen

× din røren dørkarmen

継続的動作 Durativ aktivitet

deres slåen på børnene

din kysen på pigen

din røren ved dørkarmen

参 考 文 献

- Durst-Andersen, Per & Michael Herslund. 1996a. “The syntax of Danish verbs: Lexical and syntactic transitivity”, Engberg-Pedersen, Elisabeth *et al.* (eds.) *Content, Expression and Structure. Studies in Danish functional grammar*. 65-102. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- . 1996b. “Prepositional Objects in Danish”, Heltoft, Lars & Hartmut Haberland (eds.) *Proceedings of the Thirteenth Scandinavian Conference of Linguistics*. 93-108. Roskilde: Department of Languages and Culture, Roskilde University.
- GDS → Hansen, Erik og Lars Heltoft. 2011.
- Hansen, Erik & Lars Heltoft. 1994. “Kentauernominaler i dansk”, Baron I. (ed.). *NORDLEX-Projektet. Sammensatte substantiver i dansk. LAMBDA 20*. 57-67. Copenhagen: Copenhagen Business School. Department of Computational Linguistics.
- . 2011. *Grammatik over det Danske Sprog I-III*. Odense: Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. Syddansk Universitetsforlag. (GDS と略す)
- Herslund, Michael. 1998. “Transitivitet og antipassiv i dansk”, *Årsberetning 1996-1997*. 57-65. Selskab for Nordisk Filologi, København.
- . 2002. *Danish*. Language of the World/Materials 382. München: LINCOM EUROPA.
- 川島淳夫ほか編. 1994. 『ドイツ言語学辞典』. 東京：紀伊國屋書店.
- 国松孝二ほか編. 1990 (1985). 『小学館 独和大辞典 (コンパクト版)』. 東京：小学館.
- 新谷俊裕. 2005. 「デンマーク語の -en 動詞的名詞とケンタウロス名詞句」, *IDUN* Vol. 17, 75-124.
- 新谷俊裕・Thomas Breck Pedersen・大辺理恵. 2014. 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ 10 デンマーク語』. 大阪：大阪大学出版会.
- 戸川敬一ほか. 1992. 『マイスター独和辞典』. 東京：大修館書店.
- 富山芳正編. 1991. 『独和辞典』. 東京：郁文堂.
- フォックス, アンソニー著, 福本義憲訳. 1993. 『ドイツ語の構造. 現代ドイツ語へのアクセス』. 東京：三省堂.

例 文 出 典

Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. *Korpus 2000 & Korpus 90*. <http://korpus.dsl.dk/korpus2000/indgang.php>.

著 者 紹 介

新 谷 俊 裕

(本学言語文化研究科言語社会専攻教授：デンマーク語学，デンマーク語教育)

IDUN —北欧研究— 別冊 3 号

デンマーク語中級文法 1

デンマーク語の動詞の **aktionsarter** (動作態様) について

— デンマーク語の動詞の意味・用法を
よりよく理解するために —

2018 年 12 月 25 日 発行

著 者 新谷 俊裕 ©

発行者 大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
デンマーク語・スウェーデン語研究室
〒562-8558 箕面市栗生間谷東 8-1-1

印刷者 能登印刷株式会社
石川県金沢市武蔵町 7-10

関西営業所
大阪府池田市石橋 2-15-24-610